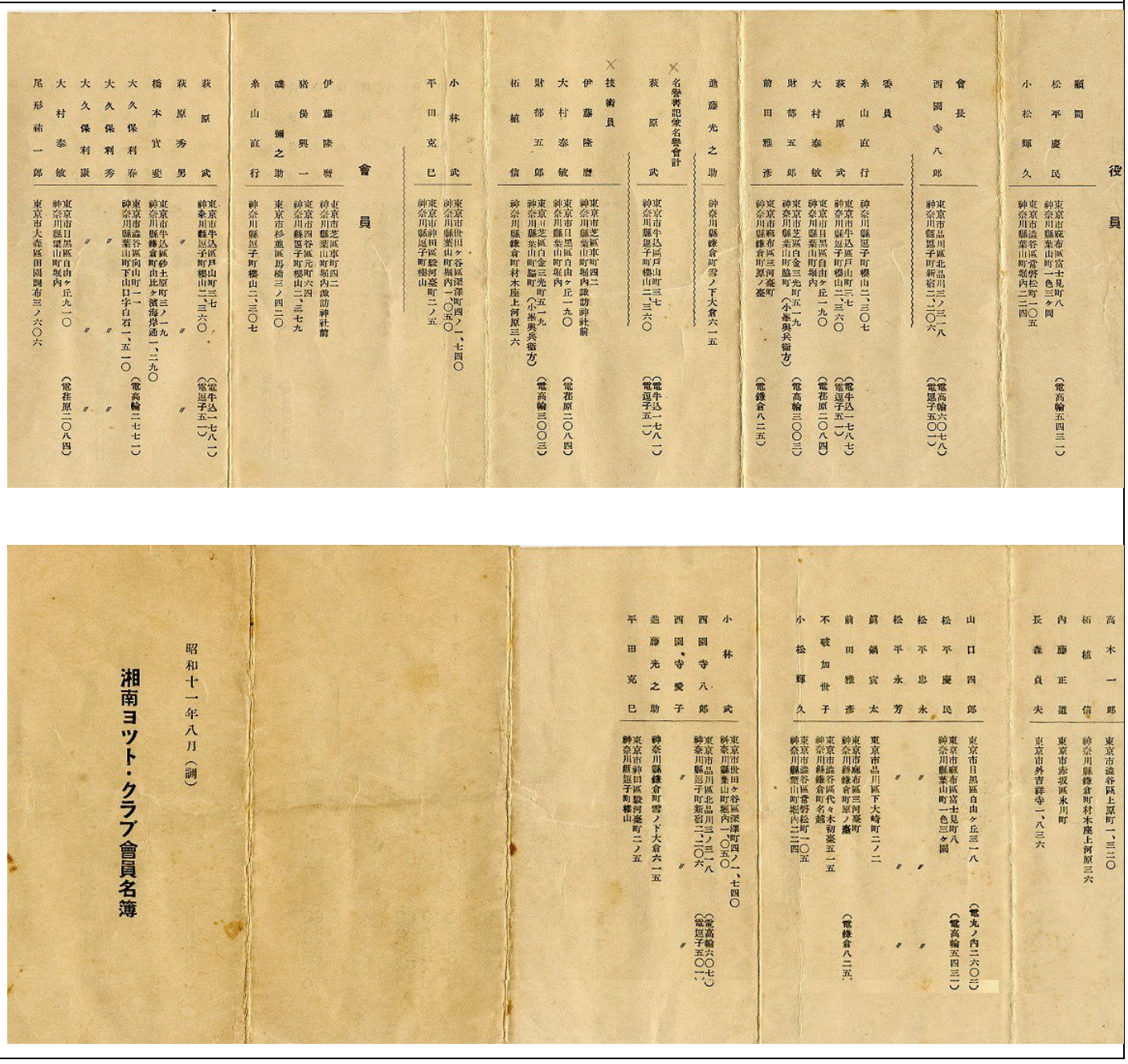
葉山ヨットクラブの譜系を尋ねる

クラブ黎明期	1932年（昭和7年）	（此の頃、新宿湾・葉山港のクルーザー及び国内5mクラスのヨット仲間が結集し、レースを開始したようである。）
	1933年（昭和8年） 8/6（日）第2回湘南ヨットレース開催 「ヨットの思い出」大村泰敏著より	葉山堀の内の慶応体育会水泳部の櫓をスタート点として西方に拡がる三哩の三角コース。競技はA級八米以上、B級五米以下。乗艇員制限なし。
湘南ヨットクラブ	1936年（昭和11年） 湘南ヨットクラブ会員名簿 昭和11年8月調　会員33名）氏名住所録が残存 ＜名簿＝＞ 現存する資料より、湘南ヨットクラブの正式な設立は、1936年（昭和11年）8月で間違えなさそうである。	

顧問
松平慶民　東京市麻布区富士見町八　神奈川縣葉山町一色三ヶ岡
小松輝久　東京市澁谷区常磐松町一〇五　神奈川縣葉山町堀内二二四　（電高輪五四三一）

役員
会長
西園寺八郎　東京市品川区北品川三ノ二一八　神奈川縣逗子町新宿二二〇六　（電高輪六〇七八）（電逗子五〇一）
委員
糸山直行　神奈川縣逗子町櫻山二、三〇七
萩原武　東京市牛込区戸山町三七　神奈川縣逗子町櫻山二、三六〇　（電牛込一七八七）（電逗子五一一）
大村泰敏　東京市目黒区自由ヶ丘一、九〇　神奈川縣葉山町堀内　（電荏原二〇八四）
財部五郎　東京市芝区白金三光町五一九　神奈川縣葉山町臨町（小笠原兵衛方）　（電高輪三〇〇三）
前田雅彦　東京都麻布区三河臺町　神奈川縣鎌倉町原ノ臺　（電鎌倉八二五）
進藤光之助　神奈川縣鎌倉町雪ノ下大倉六一五

×名譽顧問兼名譽會計
萩原武　東京市牛込区戸山町三七　神奈川縣逗子町櫻山二、三六〇　（電牛込一七八一）（電逗子五一一）

×技術員
伊藤隆麿　東京市芝区東町四二　神奈川縣葉山町堀内　諏訪神社前
大村泰敏　東京市目黒区自由ヶ丘一、九〇　神奈川縣葉山町堀内　（電荏原二〇八四）
財部五郎　東京市芝区白金三光町五一九　神奈川縣葉山町臨町（小笠原兵衛方）　（電高輪三〇〇三）
柘植信　神奈川縣鎌倉町村木座上河原三六　（電鎌倉八二五）

小林武　東京市世田ヶ谷区深澤町四ノ一、七四〇　神奈川縣葉山町堀内一〇五〇
平田克巳　東京市神田区駿河臺町二ノ五　神奈川縣逗子町櫻山

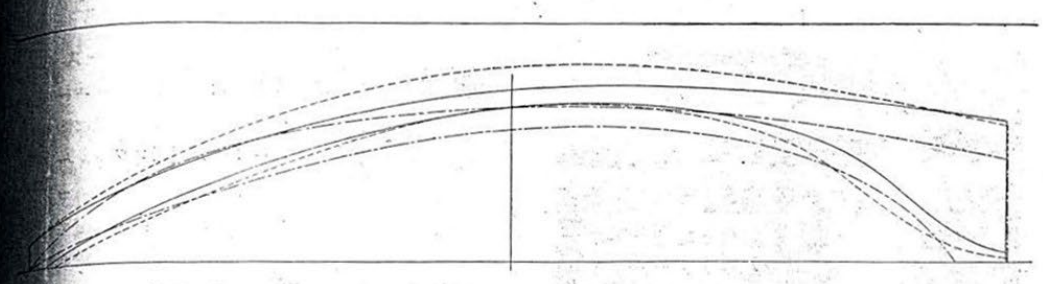
會員
萩原武　東京市牛込区戸山町三七　神奈川縣逗子町櫻山二、三六〇　（電牛込一七八一）（電逗子五一一）
萩原秀男　〃
橋本實雄　東京市牛込区砂土原町三ノ一九　神奈川縣鎌倉町由比ヶ濱海岸通一、二九〇
大久保利春　東京市澁谷区向山町一一　神奈川縣葉山町下山口字白石一、五一〇　（電高輪二七七一）
大久保利秀　〃
大久保利謙　〃
大村泰敏　東京市目黒区自由ヶ丘九一〇　神奈川縣葉山町堀内　（電荏原二〇八四）
尾形祐一郎　東京市大森区田園調布三ノ六〇六
伊藤隆麿　東京市芝区東町四二　神奈川縣葉山町堀内　諏訪神社前
猪俣興一　東京市四谷区元町六四　神奈川縣逗子町櫻山二、三七九
磯部彌之助　東京市杉並区馬橋三ノ四二〇
糸山直行　神奈川縣逗子町櫻山二、三〇七

高木一郎　東京市澁谷区上原町一、三二〇
柘植信　神奈川縣鎌倉町村木座上河原三六
内藤正道　東京市赤坂区氷川町
長森貞夫　東京市外吉祥寺一、八三六
山口四郎　東京市目黒区自由ヶ丘三一八　（電丸ノ内二六〇二）
松平慶民　東京市麻布区富士見町八　神奈川縣葉山町一色三ヶ岡　（電高輪五四三一）
松平忠永　〃
松平永芳　〃
眞鍋實太　東京市品川区下大崎町二ノ二
前田雅彦　東京都麻布区三河臺町　神奈川縣鎌倉町原ノ臺　（電鎌倉八二五）
不破加世子　東京市澁谷区代々木初臺五一五　神奈川縣鎌倉町名越
小松輝久　東京市澁谷区常磐松町一〇五　神奈川縣葉山町堀内二二四
小林武　東京市世田ヶ谷区深澤町四ノ一、七四〇　神奈川縣葉山町堀内一〇五〇
西園寺八郎　東京市品川区北品川三ノ二一八　神奈川縣逗子町新宿二二〇六　（電高輪六〇七八）（電逗子五一一）
西園寺愛子　〃
進藤光之助　神奈川縣鎌倉町雪ノ下大倉六一五
平田克巳　東京市神田区駿河臺町二ノ五　神奈川縣逗子町櫻山

昭和十一年八月（調）
湘南ヨット・クラブ會員名簿

舵誌昭和11年9月号
湘南ヨットクラブ設立の記事あり
委員は下記の諸氏である。
（逗子）荻原武、糸山直行
（葉山）大村泰敏
（鎌倉）進藤光之助、前田雅彦
＜舵誌資料＝＞

「舵」昭和11年9月号



B圖　前同ハーフ・プレヴ・プラン

れた特長は非常に風上に切上る性能を有して、順風に於ては稍々劣る様だが次第に改良されて、この後スキヤンダルとトリヤードの二隻が建造されたが、これが最近に於ける花形で互ひに選手權を爭ひ合つて火花を散らして來た。

こゝに至る迄にはオスボーン氏の偉大なる功績を認めなければならない。オスボーン氏の謂ふところに依れば、セーリングヂンギーでは排水量と浸水面積を減さなければならない。濠洲ヂンギー協會に於てもこれを認めた結果、最近の彼のデザインになる「ソーン」は十四フツターとしては最小幅のビーム即ち四呎六吋を採用してゐる。

トリヤードはビームが五呎で、ソーンよりも排水量が大で、ソーンの百六十平方呎に對する二百六十平方呎の帆面積を持つてゐるが、ソーンの成績の方が優秀であつた。ソーンの特長は種々あるが、先づ第一にトリヤード型の價格の半額で出來重量が輕いので取扱ひに甚だ便利なことである。尙近代のヂンギーは荒天に使用出來る様にハーフデツキの傾向がある。帆面積には制限がないので大いさと型は種々あるが、マルコニーリグが最も流行してゐる。そして普通二組乃至三組のセイルを所有して天候に應じて使用して居るが、これは非常に金がかゝる事になるので帆面積を二百三十呎に制限される案が持ち上つてゐる。從つて濠洲に於ける十四呎ヂンギーは更に一段と一般化して協會の飛躍が期待されてゐるのである。

不忍池に

セーリング・ボート出現？

別項所載「小船繫留場座談會」に出席した東京市公園課長井下氏を、記者がその後訪問したところ「不忍池や千ノ頭等の市營貸ボート場で、手輕な貸ヨットをやつてみたいと思ふが、どんなヨットが良いだろうか……」と質問があつたので、記者は早速ヨット協會内の專門家に相談して、智惠を借りる事にした。近く成案を得次第實施する豫定である。

水に渴えて、僅かに貸ボートに集つて望みを滿してゐる市民も、愈々粹な白帆に親しむ事が出來る譯で、之は偏に井下公園課長の英斷に待つところである。前記座談會が先づ齎した實績の一つ。

湘南ヨット倶樂部成立

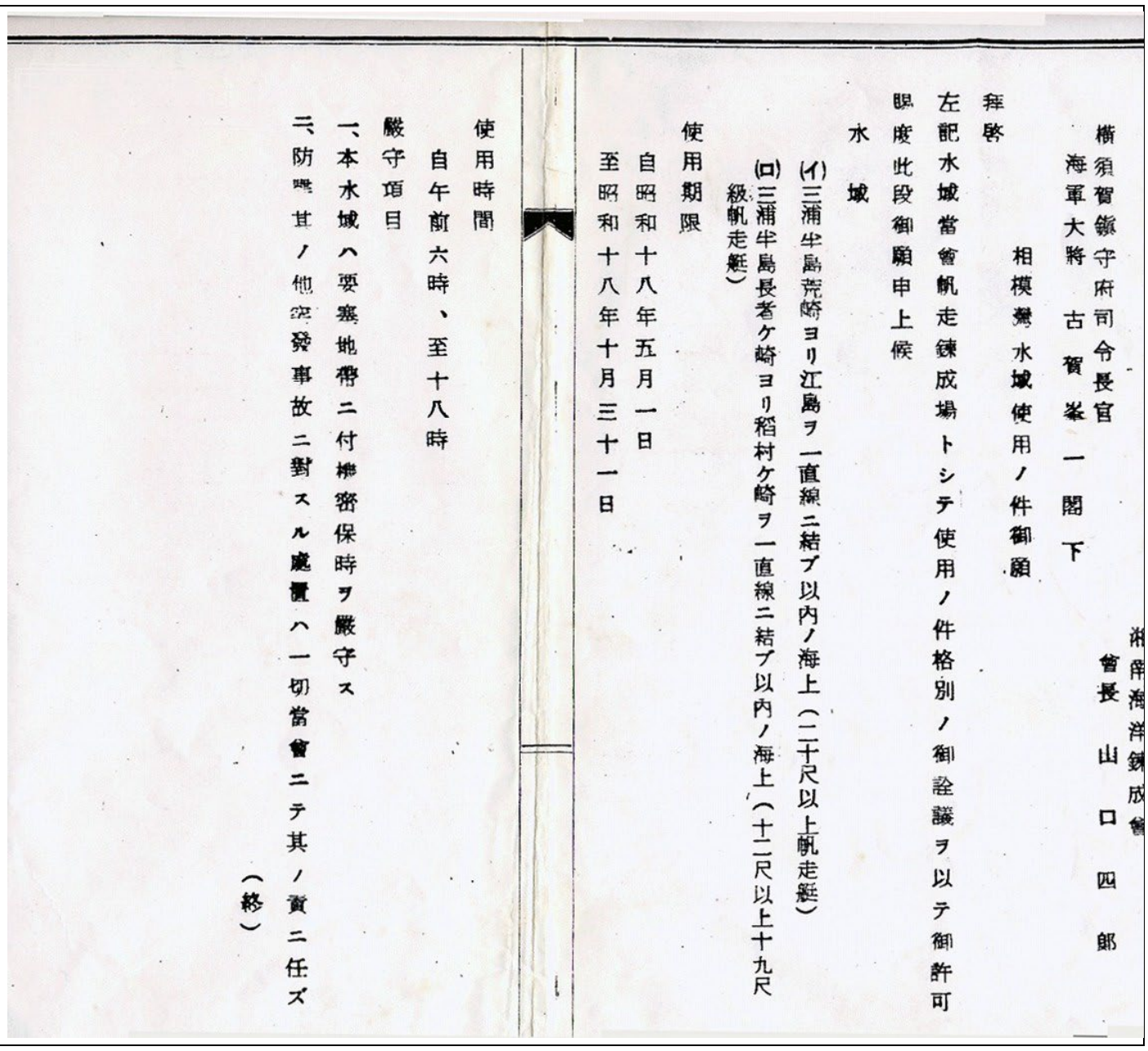
本邦ヨットレース界に古い歴史を有する湘南ヨットレース大會は、毎年夏、葉山に於て盛大に擧行されてゐるが、今夏之が母體となつて、逗子、葉山、鎌倉に活躍するヨットマンを叫合し湘南ヨット倶樂部が組織された。會長には日本ヨット協會副會長西園寺八郎氏が就任されメムバーには小松侯、橋本伯、松平子、内藤子、大村子、吉川男等華胄界の名士が多い。前記三水域より選出された委員は下記の諸氏である。

（逗　子）　荻原武、糸山直行
（葉　山）　大村泰敏
（鎌　倉）　進藤光之助、前田雅彦

六米級設計圖購入

來るべきオリムピツク東京大會のヨット・レースに備ふる爲に、西園寺八郎氏は、神戸のロイド派遣員コツタス氏を通じて、英國のデザイナー Alfred Mylne 氏より國際六米レーティング級の設計圖を購入した。

×　×　×

湘南海洋錬成会	1941年（昭和16年） 湘南ヨットクラブはS16からS26まで湘南海洋錬成会に改称 ＜錬成会＝＞	

横須賀鎮守府司令長官
海軍大將　古賀峯一　閣下

湘南海洋錬成會
會長　山口四郎

相模灣水域使用ノ件御願

拝啓

左記水域當會帆走錬成場トシテ使用ノ件格別ノ御詮議ヲ以テ御許可賜度此段御願申上候

水域

(イ)三浦半島荒崎ヨリ江島ヲ一直線ニ結ブ以内ノ海上（二十尺以上帆走艇）

(ロ)三浦半島長者ケ崎ヨリ稲村ケ崎ヲ一直線ニ結ブ以内ノ海上（十二尺以上十九尺級帆走艇）

使用期限

自昭和十八年五月一日
至昭和十八年十月三十一日

使用時間

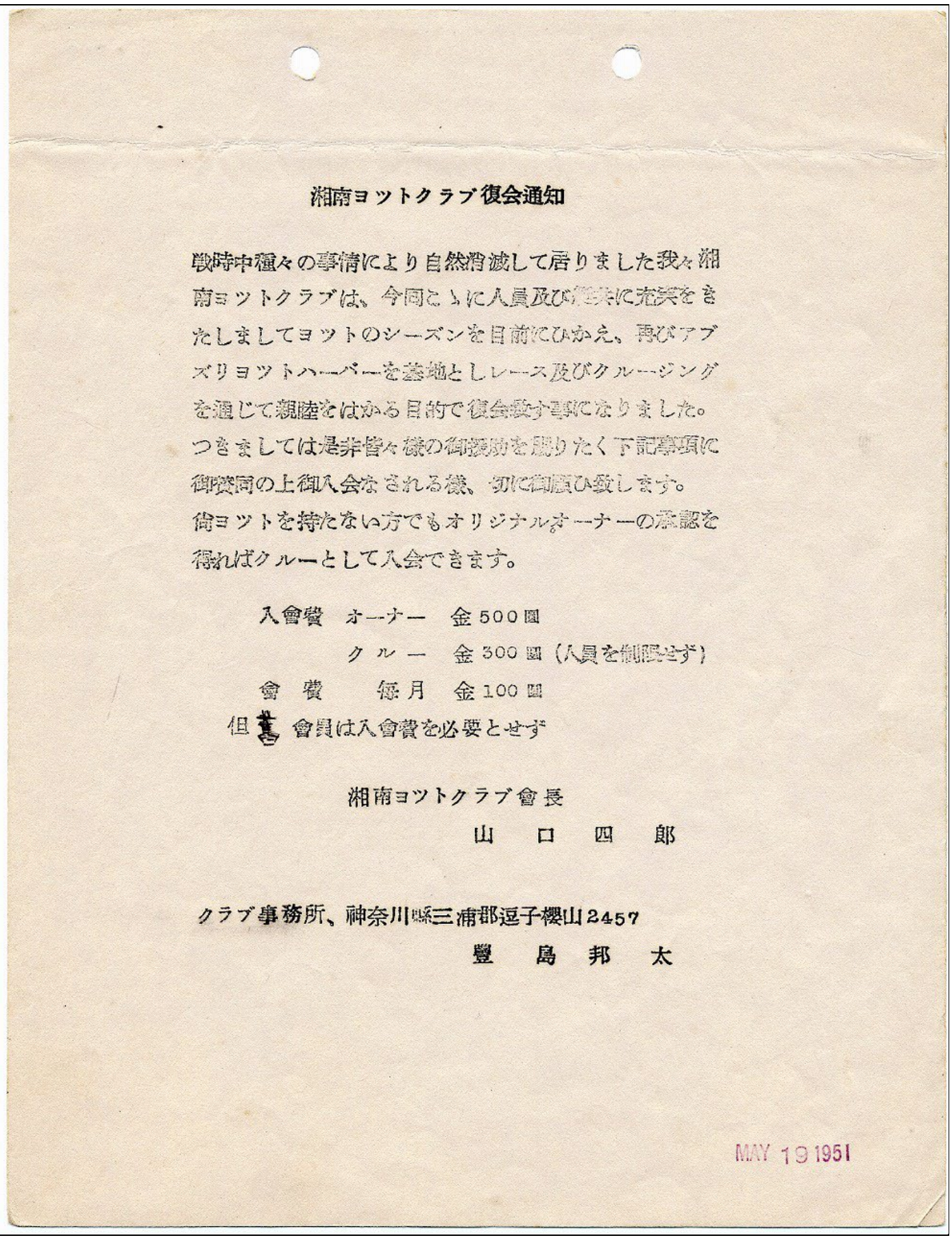
自午前六時、至十八時

嚴守項目

一、本水域ハ要塞地帶ニ付機密保時ヲ嚴守ス

二、防衛其ノ他突發事故ニ對スル處置ハ一切當會ニテ其ノ責ニ任ズ

（終）

湘南ヨットクラブ	1951年（昭和26年） 5/19 湘南ヨットクラブ復会 入会費　ｵｰﾅｰ500円、ｸﾙ-300円、会費　100円/月 8/5 湘南ヨットクラブ会員通知 ＜復会通知資料＝＞	

湘南ヨットクラブ復会通知

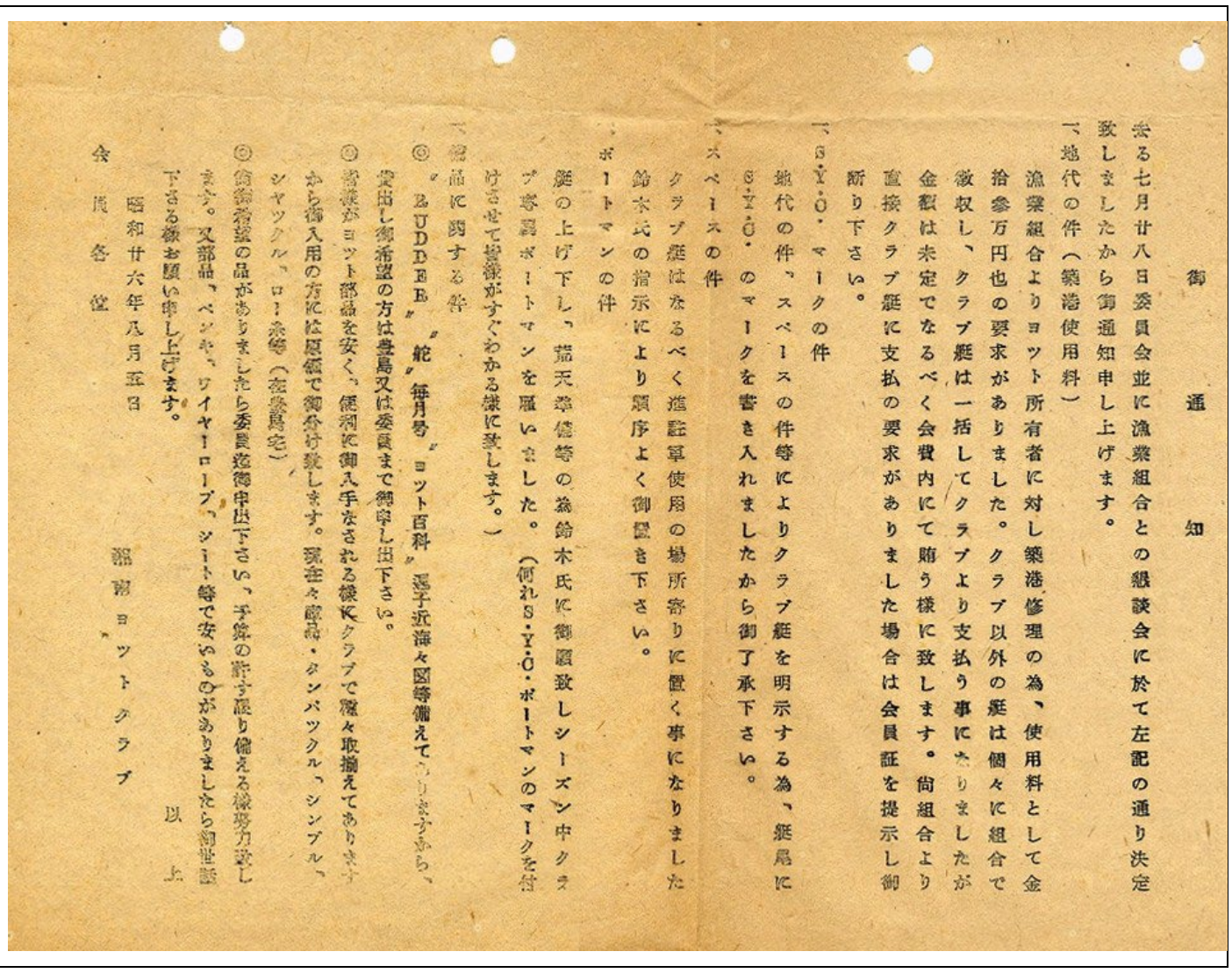
戦時中種々の事情により自然消滅して居りました我々湘南ヨットクラブは、今回とゝに人員及び資金に充実をきたしましてヨットのシーズンを目前にひかえ、再びアブズリヨットハーバーを基地としレース及びクルージングを通じて親睦をはかる目的で復会致す事になりました。つきましては是非皆々様の御援助を賜りたく下記事項に御賛同の上御入会なされる様、切に御願ひ致します。
尚ヨットを持たない方でもオリジナルオーナーの承認を得ればクルーとして入会できます。

入會費　オーナー　金500圓
　　クルー　金300圓（人員を制限せず）
會費　毎月　金100圓
但　會員は入會費を必要とせず

湘南ヨットクラブ會長
山口四郎

クラブ事務所、神奈川縣三浦郡逗子櫻山2457
豐島邦太

MAY 19 1951

	(漁協への使用料の支払い：築港修理費に充てる為、使用料として 13 万円の支払い、会員艇の係留を始めた。＜資料＝＞	

御通知

去る七月廿八日委員会並に漁業組合との懇談会に於て左記の通り決定致しましたから御通知申し上げます。

一、地代の件（築港使用料）

漁業組合よりヨット所有者に対し築港修理の為、使用料として金拾参万円也の要求がありました。クラブ以外の艇は個々に組合で徴収し、クラブ艇は一括してクラブより支払う事になりましたが金額は未定でなるべく会費内にて賄う様に致します。尚組合より直接クラブ艇に支払の要求がありました場合は会員証を提示し御断り下さい。

一、S・Y・C・マークの件

地代の件、スペースの件等によりクラブ艇を明示する為、艇尾にS・Y・C・のマークを書き入れましたから御了承下さい。

一、スペースの件

クラブ艇はなるべく進駐軍使用の場所寄りに置く事になりました鈴木氏の指示により順序よく御置き下さい。

一、ボートマンの件

艇の上げ下し、荒天準備等の為鈴木氏に御願致しシーズン中クラブ専属ボートマンを雇いました。（何れS・Y・C・ボートマンのマークを付けさせて皆様がすぐわかる様に致します。）

一、備品に関する件

◎〝RUDDER〟〝舵〟毎月号〝ヨット百科〟遠子近海々図等備えてありますから、貸出し御希望の方は豊島又は委員まで御申し出下さい。

◎皆様がヨット部品を安く、便利に御入手なされる様にクラブで種々取揃えてありますから御入用の方には原価で御分け致します。現在々庫品・タンパツクル、シンブル、シャツクル、ロー糸等（在豊島宅）

◎尚御希望の品がありましたら委員迄御申出下さい、予算の許す限り備える様努力致します。又部品、ペンキ、ワイヤーロープ、シート等で安いものがありましたら御世話下さる様お願い申し上げます。

以上

昭和廿六年八月五日

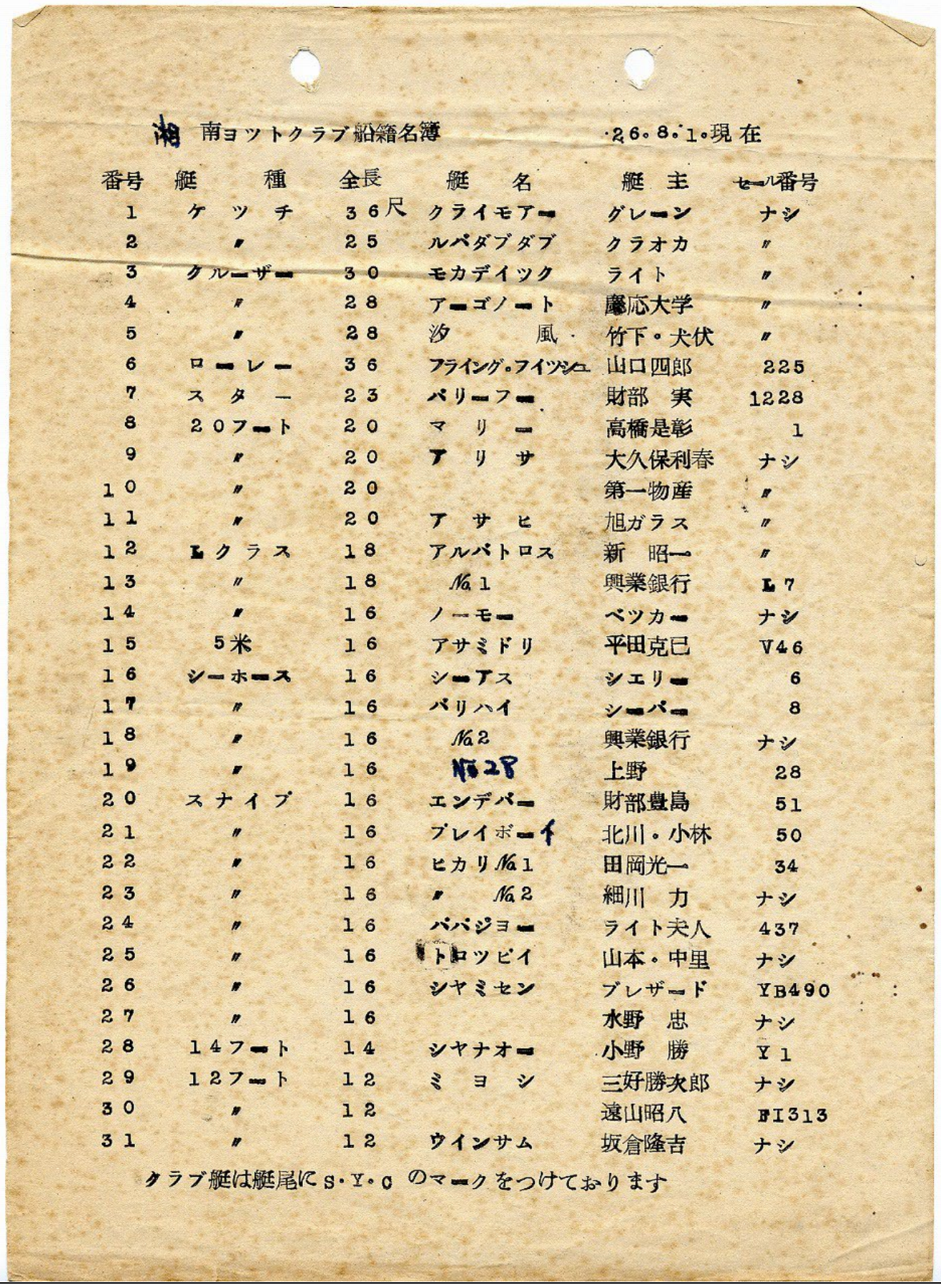
湘南ヨットクラブ

会員各位

湘南ヨットクラブ

8/1 湘南ヨットクラブ船籍名簿　(31 艇)

＜名簿＝＞



湘南ヨットクラブ船籍名簿　26.8.1.現在

番号	艇種	全長	艇名	艇主	セール番号
1	ケッチ	36尺	クライモアー	グレーン	ナシ
2	〃	25	ルバダブダブ	クラオカ	〃
3	クルーザー	30	モカデイック	ライト	〃
4	〃	28	アーゴノート	慶応大学	〃
5	〃	28	汐風	竹下・犬伏	〃
6	ローレー	36	フライング・フイッシュ	山口四郎	225
7	スター	23	バリーフー	財部実	1228
8	20フート	20	マリー	高橋是彰	1
9	〃	20	アリサ	大久保利春	ナシ
10	〃	20		第一物産	〃
11	〃	20	アサヒ	旭ガラス	〃
12	Lクラス	18	アルバトロス	新昭一	〃
13	〃	18	No.1	興業銀行	L7
14	〃	16	ノーモー	ベツカー	ナシ
15	5米	16	アサミドリ	平田克巳	V46
16	シーホース	16	シーアス	シエリー	6
17	〃	16	バリハイ	シーバー	8
18	〃	16	No.2	興業銀行	ナシ
19	〃	16	No.28	上野	28
20	スナイプ	16	エンデバー	財部豊島	51
21	〃	16	プレイボーイ	北川・小林	50
22	〃	16	ヒカリNo.1	田岡光一	34
23	〃	16	〃 No.2	細川力	ナシ
24	〃	16	ババジョー	ライト夫人	437
25	〃	16	トロツビイ	山本・中里	ナシ
26	〃	16	シヤミセン	ブレザード	YB490
27	〃	16		水野忠	ナシ
28	14フート	14	シヤナオー	小野勝	Y1
29	12フート	12	ミヨシ	三好勝次郎	ナシ
30	〃	12		遠山昭八	FI313
31	〃	12	ウインサム	坂倉隆吉	ナシ

クラブ艇は艇尾にS・Y・C のマークをつけております

湘南ヨットクラブ・葉山ヨットクラブ

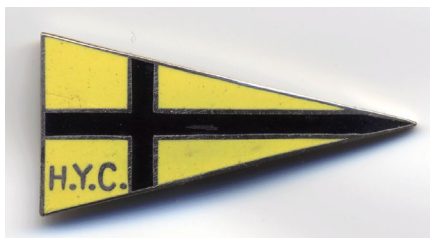
1952 年（昭和 27 年）～1962 年（昭和 37 年）
葉山ヨットクラブがシーホース中心に活動するもやがて自然休会となる

葉山ヨットクラブが湘南ヨットクラブを正式に継承した形跡があるが、それを証明する資料はない。

2012/5/21 の豊島氏口述にある、湘南ヨットクラブメンバーの３名は、その後葉山ヨットクラブに関わっている。

企業クラブのヨットが増え、個人会員中心のクラブ運営が時代の変化に揉まれ活動が鈍った時期である。

＜葉山ヨットクラブバージ＞



＜現葉山ヨットクラブバージ＞

＜豊島邦太氏口述＞
旧ヨットハウス２Ｆの喫茶室（豊島氏経営）をクラブハウス代わりとしていた
現葉山ヨットクラブバージは湘南ヨットクラブを原型としている
湘南ヨットクラブの３名、山口四郎氏、財部実氏と豊島邦太氏達が葉山ヨットクラブへの名称変更の議論があった記憶がある。
（詳細は、後述する 2012 年 5 月 21 日の豊島邦太ヒアリング結果参照）
注）山口四郎氏（湘南ヨットクラブ会長）
　　財部実氏（のちの旧葉山ヨットクラブ会長）
　　豊島邦太氏（旧葉山ヨットクラブ事務所）

葉山ヨットクラブ	1962年（昭和37年） 6月　「葉山ヨットクラブ総会;役員決定の記事(舵) ＜舵資料＝＞	舵1962年 (昭和37年) 6月号 **葉山ヨットクラブ・役員決定** 葉山ヨットクラブでは，このほど37年の総会を開き，本年度の事業計画，昨年度の会計報告などを承認した。新役員は， （会長）財部　実（運営委員長）松下浩三（副委員長）早乙女道男（財務委員）真田親幸（委員）稲葉　明，安田長弘 今まで湘南地方で最大のハーバーを有するクラブでありながら，その運営面に於いて兎角の評があったが 88

		本年度から内外ともに面目を一新してスマートなクラブとして運営をすることとなり，クラブ主催のレース，クルージングなどを行うほか，会員の艇の装備の統一や，救命艇を購入して会員の安全を計るなど，その活躍が期待されている。 なお，7月以降の本年度クラブ主催の主なレースは，次の通りである。 7月1日　ポイントレース　葉山附近 8月5日　〃　〃 8月12日　オープンレース　葉山附近 9月2日　ポイントレース　鳥帽子岩回航レース 10月7日　〃　葉山附近 10月21日　日帰りクルージング　荒崎公園迄 **葉山ヨットクラブ5月のポイント・レース** 5月6日に予定されていた葉山ヨットクラブ主催のポイントレースは，本年度のシーズン開幕が遅れたため，5月20日（日）晴天の葉山沖で催された。 スナイプ，Y 15，シーラス混成チームと，シーホースクラスの2組に分け，スナイプ等クラス10艇，シーホースクラス12艇が参加した。 第1レースは10時30分スタート，SE 風2～3mの微風に各艇とも悩ませれたが，午後の第2，第3レースの頃からS風4m位いとなり，絶好のレース条件に各艇とも奮闘した。成績次の通り。(H.Y.C. 安田記) スナイプ等クラス第1位 スナイプ（S），Y-15，シーラス（C）級 ①大隈，上原（S）（三菱商事）37$^{1}/_{2}$点②武 矩，清水（S）32$^{1}/_{4}$点③岡本，幸保（S)(逗葉 KO）29点④田中，加藤（S）（逗葉KO）28点⑤小林，稲森（S)(逗葉KO）26点⑥関谷，西村（S）（逗葉 KO）24点⑥森村，早乙女（C）24点⑦富永，山崎（S)(逗葉 KO）20点⑧橋本，伊藤（Y15）⑥野々山，秋山，小田（S）（大正海上） シーホース級 ①新木一，新木国，安田40$^{1}/_{4}$点②末兼，小田柿，津島40点③斎藤，山口（興銀）38$^{1}/_{4}$点④青木，稲葉(興銀）35点⑤曽我谷，大井（三菱銀行）⑥牧原，山田（三菱商事）⑦沼田，藤川，江面（住友商事）⑧新井，女部田（興亜火災）⑨長瀬，宇山（興亜火災）⑩佐野，有馬，宮盛（大正海上）⑪山口，松山，和泉（三井信託）
葉山港利用	1988年（昭和63年） 9月　葉山港利用者協議会発足	
	1989年（昭和64年） 葉山利用者協議会から「葉山ヨットクラブ」に改組 (葉山利用者協議会が発展的に改組)	

<table>
<tr>
<td>者
協
議
会
／
葉
山
ヨ
ッ
ト
ク
ラ
ブ</td>
<td>1989 年（平成元年）
12/1 葉山ヨットクラブ規約制定(2001 改訂版の規約残存)
＜規程＝＞</td>
<td>(2001年改訂案)

葉山ヨットクラブ規約

第一章　総則

第1条　本会は「葉山ヨットクラブ」と称する。
第2条　本会は葉山港に係留もしくは陸上保管するヨットのオーナー、ならびにクルーを以って構成する。
なお、当クラブ構成メンバーのディンギーによるディンギー部会を置く。
第3条　本会は会員相互、及び葉山港管理事務所、葉山港漁業組合、他のヨットクラブ、並びに地域社会との親睦、融和を図り併せて相互の発展を目的とする。
第4条　本会の運営は会員相互の協力により行なうものとする。
第5条　本会の事務局は葉山港管理事務所内に置く。

第二章 入会、並びに退会

第６条 本会の会員の資格は第２条で明記の通り、葉山港に継続的に係留もしくは陸上保管するヨットのオーナー、及びクルーであることを要す。
第７条 会員の登録は艇単位とする。但し、代表者を１名明記する。
第８条 会員である艇が葉山港に係留または陸上保管しなくなった時、および会費滞納の場合は自然退会とする。
第９条 会員が退会する場合は、本会の財産に対する一切の請求権を失うものとする。

第三章 役員

第10条 本会は運営に最低必要な下記の役員を置く。
会長　　１名
副会長　１名
会計　　１名
会計監査１名
理事　　６名（各係留の列、およびディンギー部会より各１名）
顧問　　若干名
但し、会計、及び会計監査はクルーザーの内から総会の議決に基づいて選出する。また、顧問は理事会の指名に基づいて選出する。
第11条 会長、会計、および会計監査は総会に於いて会員の選挙により選出する。副会長は会長の指名に基づき、総会の承認を受けて選出する。
第12条 理事は係留各列、およびディンギー部会より各１名を互選により選出する。
第13条 役員は本会を代表し、クラブの運営を図る。
第14条 役員の任期は原則として一年間とし、就任後、翌年総会終結の時を以って満了とする。但し、再選は妨げない。

第四章 総会、並びに臨時総会

第15条 総会、及び臨時総会は役員、及び会員の要請により会長が招集して、開催す

1</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td></td>
<td>る。尚、議長は会長が務める。
第16条 総会の招集は事前に会議の日時、場所、及び目的事項を記載した書面を以って各会員（艇単位）に通知する。
第17条 総会は原則として毎年６月末日までに開催する。
第18条 本規約中、次の事項は総会に付議する。
1）規約の制定、及び変更
2）活動計画、及び報告
3）年次会計報告
4）会長、会計、および会計監査の選出、および副会長指名の承認
5）会費の金額
6）その他必要と認めた事項
第19条 総会の決議は一艇一票とし、出席者の過半数を以って可否を決する。
尚、可否同数の時は議長がこれを決する。

第五章会計

第20条 本会の会計年度は毎年４月１日より翌年３月31日迄として、年度毎に決算を行うものとする。
なお、ディンギー部会については、独立会計とする。
第21条 本会の経費は会費、及び寄付金をもってこれに充てる。必要のあるときは臨時会費を徴収することが出来る。
第22条 本会の会費は、艇単位、年額5,000円とし、会員は年会費を５月末日迄に納入する。
本規定に拘らず、ディンギー部会の会費はディンギー部会において定める。

第六章 活動計画

第23条 本会の活動計画は、会員の提案に基づき、総会、もしくは理事会の承認を得たうえで本会が主催して行なう。
第24条 本会員は本会が主催する活動に対し積極的に協力、および参加するる。
第25条 本会の主催事業の会計は、事業の終了後、速やかに会計幹事に当該事業の精算を行なう。この収支についての収益および損失は、本会に帰属するものとする。

平成元年 12 月 1 日制定
平成　3 年 6 月 30 日改訂(第 19 条定足数削除、議決は全会員の過半数から出席者の過半数に変更)
平成 11 年 6 月 27 日改訂(第 10 条役員呼称の一部変更と顧問の新設：代議員→理事、他)
平成 12 年 6 月 25 日改訂(第 19 条投票権の明定、第 22 条年会費額改訂¥3,000—→¥5,000–、第 23 条事業活動の主体を会員から会の事業に変更。第 24 条も第 23 条との関連で改訂。第 25 条経費積算規定新設)
平成 13 年 6 月 24 日ディンギー部会設置に伴い第 2 条、第 6 条、第 8 条、第 10 条、第 12 条、第 18 条、第 20 条、第 22 条改訂。

2</td>
</tr>
<tr>
<td></td>
<td>1990 年（平成 2 年）
クラブバージの更新(旧葉山ヨットクラブバージデザインのバージョンアップ)</td>
<td></td>
</tr>
</table>

	1995 年（平成 7 年）11 月 「ヨットの思い出」大村泰敏著の第 16 話に 「昭和 11 年夏に湘南倶楽部ラブを設立し、 湘南ヨットレース等の事業を引き継いでいった。」という記述あり	 著者略歴 明治四十一年一月二十四日　生まれ ●日本作曲家協会会員 ・作曲「なでしこ」曲集出版そのほか ●財団法人日本ヨット協会　理事及び理事長 ●財団法人日本体育協会評議員 ●東京都体育協会評議員 ●箱根観光船株式会社　東京出張所長 ●日本高速船株式会社　参与・東京営業所長 そのほかを歴任。 ●財団法人日本ヨット協会　顧問ならびに殿高審判委員、ルール委員 ●東京都ヨット連盟　会長 ●社団法人飛鳥会館　伝統文化委員ならびに緑竹会（雅楽）会長代行を歴任する。 ヨットの思い出 平成七年十一月三十日　第1版発行 著　者　大村　泰敏 印刷所　廣済堂印刷株式会社 1995　Yasutosi Omura DTP PROCESS BY KAZI SHAKEHAND 著者近影 第十六話 第一回湘南ヨットレースにて「モカデイック」 葉山に横浜セーリング倶楽部会員のクルーザーが集まったので、大島までクルージングをすることになった。昭和十一年八月のことである。「若草」（西園寺八郎氏他）、「アオイ」（松平永芳氏他）、「モカデイック」（磯彌之助氏他）の三隻が参加した。私は「若草」に同乗したが、従兄の小早川元治氏が写真班として乗艇していた。 当日は好天気であったが風がかなり強く吹いており、波も荒かったので、クローズホールドで帆走するのに苦心をしていた（小早川氏が撮影した磯氏の「モカデイック」がヒールをしてしぶきを揚げている写真が残っている）。このために、波を少しよけるようにしながらタッキングを繰り返して夕方に伊東港に入港している。昔からある有名な暖香園で一泊をした。 翌朝、伊東港を出航して大島を目指したが、前日同様の天候で、かなり風が吹いていた。伊豆稲取と大島の間を黒潮が流れており、思うような速度では進むことができず、苦労をした。大島に近くなったころに風がますます強くなり、リーフする余裕もないうちに波も大きくなってきた。 ちょうどこのとき、私は、昼食のおにぎりを食べながら右手で舵を握っていた。大きな浪が上手の舷から打ち込んできて下手の舷まで流れて行ったときに、私が左手に握っていたおにぎ 59 第十六話　湘南ヨットレースと大島クルージング 第一回の湘南ヨットレースの記録がないので残念だが、第二回の湘南ヨットレースの要項とレース規定というガリ版刷りが残っている。昭和八年八月六日（日）の開催で、葉山堀の内の慶応体育会水泳部の櫓をスタート点として西方に拡がる三哩の三角コースとなっている。競技はA級八米以上、B級五米以下と書かれている。なお乗艇員制限なし、とある。 そのころ私は、毎年葉山に避暑にきており、「トリトン四世（V三十九）」も森戸橋脇にある軽食堂および貸ボートをしていた高梨富右衛門氏に保管を頼んでいた。それで毎回のようにレースに参加することができた。また私も運営委員もしており、櫓にスタート信号用として、火見櫓につけていたような錘を使用していた。ともかくお遊びレースであるから、櫓に一人いてスタートとゴールを見ればよかったという愉しいレースであった。私の好敵手は「アサミドリ」の平田克己氏で、弱風のときは負けており、強風のときは勝つことが多かった。 その後、横浜セーリング倶楽部会員と葉山在住のヨットオーナーとで湘南ヨット倶楽部を、昭和十一年夏に設立して湘南レースなどの事業を引き継いでいった。会長西園寺八郎氏、逗子担当委員荻原氏、鎌倉担当委員進藤光之助氏、葉山担当委員大村泰敏であった。その後、会長は山口四郎氏（後に関東ヨット協会会長）にかわったが、委員もかわっている。 58
	2001 年（平成 13 年） 7 月　新港開港 ＜規程＞	
	2003 年（平成 15 年） 7/5 石原慎太郎杯　第 1 回　葉山初島レース開催 18 :00 ｽﾀｰﾄ（ﾀｲﾑﾘﾐｯﾄ　7/6　14 :00）　参加定数 22 艇　ﾌｨﾆｯｼｭ艇数 21 艇	
N P O 葉 山 ヨ ッ ト ク ラ ブ	2006 年（平成 18 年） NPO 法人　葉山ヨットクラブと改組 (石原伸晃氏が会長就任) 9/10（平成 18 年） npo 葉山ヨットクラブ設立総会開催 12/20　NPO 法人　葉山ヨットクラブ認可	
	2007 年（平成 19 年） 4/1　第 2 回総会開催 任意団体葉山ヨットクラブの資産を npo 葉山ヨットクラブが引き継ぐ	

注）大村泰敏は、明治四十一年一月 (1908)生、従五位、子爵、東京府華族、大村益次郎家の末裔で公爵毛利元昭男爵小早川四郎西園寺八郎の甥、1933 年　日本ヨット協会理事

NPO葉山ヨットクラブ	2012年（平成24年） 5月21日　豊島邦太氏ヒアリング 湘南ヨットクラブが葉山ヨットクラブへ継承された経緯について（詳細は、右欄参照） 6/24　第7回総会開催 本港ポンツーン整備完了 9/15　石原慎太郎杯　第10回葉山初島レース開催 8：00 スタート　参加艇数 22 艇　フィニッシュ艇数 20 艇	**HYC 沿革調査　豊島邦太氏　ヒアリング**　　2012/5/21 「HYC 沿革」調査の参考情報として、昭和初期より葉山鐙摺港で活動を続けておられた豊島邦太氏を訪問し、以下の通りヒアリングを行った。 日時:　2012年5月21日（月）　午後2時-4時 場所:　鎌倉・稲村ケ崎　同氏ご自宅 （134 号線の海の目の前のご自宅の庭には、数年前まで、ドラゴンが置かれており、同氏からのお話によると、在宅時は、マストにフラッグを掲げていたそうです。） 訪問者:　HYC 伊神顧問、真野理事、長尾 **豊島氏略歴**　大正 10 年（1921）生まれ（91 歳） 湘南ヨットクラブ会員（昭和 11 年（1936）名簿） 葉山ヨットクラブ創立メンバー **1.　湘南ヨットクラブ** Q:　昭和11年（1936）8月（調）「湘南ヨットクラブ会員（以下 SYC）名簿」の意義 A:　SYC としてはこれより前から活動していたが、そのうちに名簿の必要性が出てきて、苦労してこの時点でまとめたもの。この時にクラブを発足させたということではない。父の会社に頼んで活版印刷をしたという記憶がある。17歳のときである（数え年 16 歳、満 15 歳のはず。あるいは生年が 1920 か）。 Q:「（名簿の3年前の）昭和8年湘南ヨットクラブ発足か」との情報があることについて ・　A.　いつ発足させたかは、詳しくは覚えていない。また、関連資料も思いつかないが、発足はそのころかもしれない。少なくともこのころ発足したと考えても異論はない。 **2.　湘南練成会** Q:　SYC との関係 A:　戦時中「ヨット」と言う語は敵性用語として使用禁止になったので、会名を替えたもの。 Q:　終戦時の鐙摺港の状況 A:　終戦後は鐙摺港の船は全て接収され、横浜に持ってゆかれた。一時全く船が無くなった。 鐙摺港は、進駐軍のモーターボートが旧港の北側を独占使用していた。 その後、再びSYCメンバーがヨットを新造、又は購入して鐙摺にヨットが戻ってきた。 **3.　SYC 復会** Q:　昭和26年（1951）8月 SYC 復会の呼び掛けから、同37年（1962）5月の HYC 役員決定の情報までの間については、いろいろな資料を探したが HYC の名が記録に出てこない。復会後の SYC はいつ頃まで活動していたか。 A:　明確ではない。 4.　**葉山ヨットクラブ**（以下 HYC） Q:　HYC はどのような形で発足したか。SYC からの継続性はあるのか、 A:　具体的な発足時点は覚えていない。しかし、旧 SYC のメンバーであった3名、すなわち山口四郎（SYC 会長）、財部実（のちの旧 HYC 会長）、と自分（旧 HYC 事務所）でその移行に係っていた記憶はある。 また、SYCという名称から、葉山を拠点にセイリングをしているという事から「葉山ヨットクラブ」への名称変更の議論があった記憶もある。 Q:　活動の状況 A:　山口氏の考えは、ヨットクラブは基本的には個人が会員、というものだった。（実際には戦後企業の保養所などが増えたことの影響等で法人が所有する艇が増え、なかなか活発化しなかった、の意） Q:　クラブ旗 A:　クラブ旗のデザイン（黄色字に黒の十字）は、SYC のものを引き継いだ。現在 NPO-HYC が使用しているものと同じ。ただし、そのころの旗には HYC の文字はなかった。 **5.　その他** ・　豊島さんがヨットに乗っていたのは、もっぱら鐙摺である。たまに横浜ヨットクラブに行った。 ・　初期のころの鐙摺港は、築港と呼ばれていた。 ・　豊島さんは鐙摺バス停前に住んでいた。鈴木ボートサービスの2Fで喫茶店の様なことをしていたのは、昭和35年前後の数年間（息子さんが2歳の時から始めた）。山口さんに、鐙摺周辺に、飲食の場所が無かったので、近くに住んでいる豊島さんに依頼されたとの事。奥様と一緒に週末のみの営業でメニューはコーヒーとコーラ、カレー等があった。 以上